# 2月の道内景況

## 情報連絡員レポート

# 主要DIがそろって上昇に転じるも 依然マイナス域での推移続く

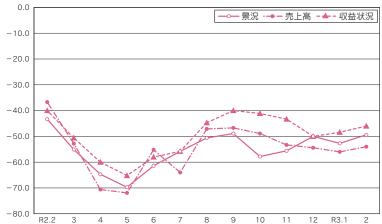
## 概況

全業種の主要DIの推移では、「景況」「売上高」 「収益状況」の全ての項目で改善が見られ、特に 「売上高」は昨年9月以来5か月ぶりに上昇に転じ たが、新型コロナウイルス感染症の影響が現れ 始めた昨年2月の水準までは回復していない。

業種別に見た比較では、製造業は「販売価格」 「資金繰り」以外の全ての項目が悪化した一方、非 製造業では「雇用人員」を除く全項目で改善した。

2月の情報連絡員報告によると、宅配や家具・家電など在宅需要を取り込んだ一部の業種では売上回復の動きがあるものの、イベント等の中止に加えて自粛要請の継続、天候不順による需要の消失やニーズ変化への対応に苦慮している組合が多く、先行きの景気や過剰人員を懸念する声が多く聞かれた。

## 主要 DI の推移



### 景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比
業界の景況	△52.7	△49.4	3.3	△51.5	△56.7	△5.2	△53.4	△45.6	7.8 *
売 上 高	△56.0	△54.0	2.0	△54.5	△56.7	△2.1	△56.9	△52.6	4.3
収益状況	△48.4	△46.0	2.4	△45.5	△60.0	△14.5 ` <b>\</b>	△50.0	△38.6	11.4
販売価格	△9.9	△6.9	3.0	△12.1	△10.0	2.1	△8.6	△5.3	3.4
取引条件	△ <b>1</b> 5.4	△14.9	0.4	△12.1	△13.3	△1.2	△17.2	△15.8	1.5 *
資金繰り	△24.2	△21.8	2.3	△27.3	△26.7	0.6 *	△22.4	△19.3	3.1
雇用人員	△23.1	△24.1	△1.1	△21.2	△23.3	△2.1	△24.1	△24.6	△0.4

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答(構成比) から「減少」(または「悪化」) という回答(構成比) を差し引いた値(DI) をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

#### 製诰業

- ・コロナの感染拡大から1年が経過したが、未だに観光土産・外食需要の落ち込みは激しく、巣ごもり需要だけでは補いきれていない。 (水産食料品/全道)
- ・コロナの影響で依然市況は低迷している。流氷到来時期のため沿岸漁業は3月 中旬まで休業、加工場も主力のホタテ加工の原料が少なく稼働を縮小してい る。 (水産食料品/網走)
- 道内感染者数がなかなか減少しないことで飲食店やホテル等への売上が落ち込み、借入や助成金等でなんとか持ちこたえている。前年度以上に売上が落ち込んでいる組合員も多く見受けられ、大変厳しい状況が続いている。

(めん類/全道)

- ・コロナの影響で業務用需要が大きく落ち込んでおり、今後の業績は業務用需要の回復度合いによるところが大きい。味噌の特売の売価に下落傾向が見られる。 (味噌・醤油/全道)
- ・感染者数は減少傾向にあるものの、自粛要請の影響で人の動きは鈍く、宿泊・飲食・サービス業では依然低迷が続いている。道内中小飲料水メーカーは各地域とも四季折々のイベント需要に負うところが大きく、これらの中止や延期が直ちに業績悪化につながっている。 (飲料/全道)
- ・製材市況はカラマツ、エゾ・トドマツいずれも保合。原木市況もカラマツ、エ ゾ・トドマツともに弱保合〜保合。カラマツ原木は製材受注が増え始め、少し

ずつ荷動きがある。エゾ・トドマツ原木も上向いている状況。製品受注は、地域差はあるが回復基調にあり、原木の不足感が出ている地域もある。紙原料は、紙需要が落ち込んでいる。木質バイオマス原料は順調に集荷されている。 (一般製材/全道)

・2月の生コン出荷量は前年同月比 97.8%の約 162 千 m³。

(窯業・土石製品製造業/全道・生コン)

・例年2月はプラント凍結などの影響で砂利の動きはない。

(窯業・土石製品製造業/全道・砂利)

・2月の売上は昨年同月比で数%減少した。前月同様、新築物件情報の報道も工事の見積依頼件数もこれまで経験したことのないほど少ない。

(窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)

・船腹過剰と供給能力の過剰による新造船需要の低下に加え、中国、韓国の政府 支援を受けた低船価受注、さらにコロナの影響で受注環境が急激に悪化し、国 内造船所は手持ち工事量が薄くなってきている。函館造船所では、新造船の発 注低迷が続き、手持ち工事量の減少により一時帰休の実施が発表された。室蘭 製作所では函館造船所向けの新造船ブロック製作を秋以降中止することが確実 になっており、造船技術者の過剰人員は避けられず、例年になく厳しい年にな ると予想される。 (金属製品/室蘭)

#### 非製造業(卸・小売・商店街・サービス業)

- ・オフィス関連の什器備品や設備関係は受注の減少幅が大きい。出張や営業が制限されているためビジネス用の靴・鞄等も過去最低の動きで推移している。これにより一部では人員削減、工場閉鎖等の動きも出ている。在宅ワーク用品やカジュアルシューズ、スーパー・ホームセンター・ドラッグストア向け商品は需要が増加し、取扱い品目による差が大きくなっている。化学機器では、PCR検査が抑制から拡大の流れに変わったことで機器や試薬の売上が増加するな動きが変化した。組合の貸会議室、展示場は緊急事態宣言の解除に伴い回復基調にある。
- ・2月期の当組合買付高は仲卸、荷受合計で先月実績から7千万円あまり増加した。首都圏を中心にコロナ感染者数が減少していることに加え、株価の好調も下支えし、消費活動の活性化に結びついた形となった。 (野菜・果実/全道)
- ・昨年2月下旬から取引先小売業ではコロナによる内食傾向の強まりが観測されており、一部の卸売菓子は需要増から売上が伸びていたが、今回はその反動減で前年割れした。観光面でも人出がなく依然厳しい状況は続き、当組合会員企業は全てで前年割れする結果となった。 (菓子/全道)
- ・制限解除後も顧客の外出自粛傾向は続いており、消費マインドは回復していない。業種別の売上では、厳冬による需要の増加から燃料系の売上が上向いたが、その他の業種は前年比で減少した。 (各種商品/旭川)
- ・市独自の緊急事態宣言解除に伴い、都市部との往来自粛要請も解除されたが、 依然客足は戻ってきていない。コロナ禍で「お家ご飯」が浸透し、各店自家製 加工品の開発・工夫を行っているものの来場者自体が少ないため成果が上がら ない状況。取引業者への今後の支払いに不安を抱えている店舗も見受けられ る。 (各種商品/小樽)
- ・2 月取扱高は前年比92%。例年であれば進学準備等で忙しくなる時期だが、 今年はコロナの影響で準備がずれ込んでいるように感じる。地元の電器店はコロナ禍でも活況で、春に向け少しずつ日常に戻っていくことを期待したい。

(各種商品/苫小牧)

- ・飲食店は前月に引き続き売上が減少する厳しい状況が続く。卸売店では結婚式 や葬儀等がコロナの影響で中止になったことで売上減。どの業種も売上回復の 兆しは見られず、資金繰りが難しくなってきている。 (各種商品/日高)
- ・販売額は前年比97.0%。食品・スーパー関連業種は前年比99.5%と割り込み、ホームセンターでは前年比84.6%と苦戦が見られた。その他一般店は前年比99.8%。家電、家具はまずまずの販売実績だった。 (各種商品/芦別)
- ・売上高は前年同期比 102.43%の実績。来客数は減少したものの、大口取引先の回復が奏功し前年実績を上回った。 (野菜・果実/札幌)
- ・降雪量の多さに加えて道路事情も悪く、全体的に来客数は少なかったが、月 2 回のイベント開催日には応募形式の催しの効果もあり集客につながった。

(鮮魚/釧路)・イベントの中止で観光客需要は消失。魚の入荷も天候悪化により不安定だった。 (各種食料品/札幌)

- ・2 月の原油価格は月初から一貫して上昇傾向で推移し、月末には 1 バレル当たり 60 ドル台半ばと、前月末を 10 ドル近く上回る水準となった。このコスト増が小売価格に反映されている地域も見られるものの、安値市況が続く一部激戦地では地場中小零細企業の経営は厳しい。コロナ禍の収束が見えず、景気の先行きは依然として不透明なことから、ガソリン等のさらなる需要減も懸念される。 (燃料/全道)
- ・先月に続き低温と降雪量の多さから売上が前年を上回る結果となった。原油価格は年明けから上昇基調にあり、2月中旬には市況価格も前年の急落前の価格まで回復し、売上高は前年比で増加した。 (燃料小売業/稚内)
- · 2月の卸値も値上げ推移となり、小売店の販売価格は改定で推移、収支状況も 従来と同じく量販店の攻勢により厳しい利益口銭に圧縮され、コロナの影響で 減販してた販売量はある程度戻ってきているものの前月同様収益は落とした。

(燃料小売業/旭川)

- ・大手ではコロナ収束後を見据えて従来とは異なる販売活動(農作業の自動化、 ドローンでの作業等)を模索しているようだ。 (農業用機械器具/全道)
- ・自粛ムードの影響で全体的に需要が鈍化してきている。 空気清浄機や加湿器な どの感染対策商品が在庫不足になっている。 (電気機械器具/全道)
- ・小売は好調だが、商品自動車の仕入に苦慮している。取扱いローン単価が下落しているとの話も聞かれる。 (中古自動車/札幌)
- ・3月のシーズンスタートに向けて動き出す時期だが、自転車や部品の入荷が遅れているため、注文を受けても数か月待ちの状況になっている。

(白転車・白動車/全道)

・地元百貨店の1月売上高は前年同月比12.5%減の4億4,349万円。コロナの 影響で衣料品の低迷が続いている。2月共通駐車券の利用は前年同月比 74.4%、買物共通バス券は前年同月比48.6%と依然厳しい状況が続く。

(帯広市・商店街/帯広)

- ・2 月中旬から町独自の宿泊助成事業が管内在住者を対象に始まったことで新規 宿泊予約が入ってきている。 (旅館/音更)
- ・3 月末の今年度決算を減収減益予測で迎える道内中小 IT 企業が多いものの、利益は予測以上に上振れするものと思われる。コロナの影響でシステム受託開発案件が減少し、売上高は前年割れするが、移動の自粛により出張経費が激減したことや設備投資の抑制、非正規社員の雇用調整や離職者不補充による人件費減によって経費が大幅に圧縮されて利益を押し上げることになる。道内の中小 IT 企業でもネット上で就活学生に積極的にダイレクトリクルーティングする動きが増加している。新年度以降はシステム開発案件が増加して更なる人材不足の深刻化が予想されるため、新卒と中途採用を区別せずに通年で採用活動に踏み切る IT 企業が多い。高度技術者や必要スキル保有者の採用を続けながら、熟練人材の離職防止にも配慮しなければならないなど、新年度も人件費増を見据えながら収益確保を目指す難しい事業経営を強いられそうだ。

(ソフトウェア/全道)

#### 非製造業 (建設•運輸業)

- ・公共工事に関しては入札物件が少なく、来年度の物件に期待して準備をしている状況。電力系の工事は確実に減少してきている。新築物件が減っているのか、引き込み線の工事も減少しているように感じる。民間全般として、来年度の予算取りという形で見積り依頼をする動きは増えてきているように感じるが、価格面では厳しい状況にあり、なかなか予定通りに進んでいかないものと予想される。電気工事業は新年度4月からの数か月間をいかに遊びなく人員を配置するかが業績を大きく左右するため、3月の段階で早々に対策していく必要がある。 (電気工事/全道)
- ・今冬は例年以上の大雪になっており、各業者とも除雪作業と並行して設備関係 の修繕を行っているため、手間がかかり苦労しているようだ。(管工事/名寄)
- 流通業界もコロナによるイベント中止や外出自粛、営業時間短縮に多大な影響を 受けたが、当組合はスポット配送やチャーター、引越などで落ち込みはあったも
- のの宅配事業が好調で売上はプラスとなっている。(一般貨物自動車運送/全道) ・この時期は元々農作物を始め貨物自体が少ないが、天候悪化で日本海側のフェ リーの欠航が相次ぎ更に貨物が減っている。除排雪業務も当該地区では降雪量 が少ないため稼働は上がっていない。(一般貨物自動車運送/小樽)
- ・農産物の荷動きは前月と同様低調に推移し、前年比で減少となったが、価格の下落については回復傾向にある。これはコロナ禍で外食産業の消費が落ち込んでいることが原因と考えられる。一般雑貨や日用品も一部品目を除いてコロナの影響で荷動きは芳しくない。工業用品は全般的に不調。1月以降、原油価格が上昇しており、収入減に加えて収益面でも悪化している。

(一般貨物自動車運送/石狩)

・売上高は前年同月比34.7%減少。乗務員数は前年同月比16.3%減少。1月分チケット取扱高は前年同月比31.8%減少。 (一般乗用旅客/旭川)